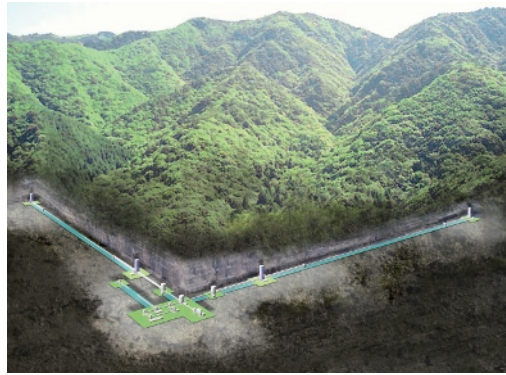


大阪市立科学館 館長 齋藤 吉彦

この小文を書いている真っ最中、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国の多くのイベントが中止、そして科学館もしばらく休館になりました。大変申し訳ない事態になっています。暗い気持ちになってしまうところでしたが、先日、元気をいただくともううれしいニュースが届きました。2月25日、神岡鉱山跡に建設された重力波望遠鏡、KAGRAが観測を始めたの



KAGRA(イメージ)

©ICRR

です。現場にいる大阪市大の神田展行教授から「神田はちょうど観測シフト(当番)で、待ちに待った観測運転開始に立ち会えて嬉しいです。KAGRA装置の現地の若い研究者たちが熱意をもって今回の運転にこぎつけました。彼らの努力に敬意を表します。同時に、この後は感度が更新して重力波イベントを見るのが本当に楽しみです。」とのコメントをいただきました。ブラックホール合体や宇宙初期で生じる重力波をとらえて、未知のことが見えてくるでしょう。科学館はブラックホールをテーマにしたプラネタリウムなどで応援します。

本誌がみなさまのお手元に届くころには、「はやぶさ2」のプラネタリウムを投影しているはずですが、12月に「はやぶさ2」が小惑星から砂粒を持ち帰ります。この砂粒から太陽系や生命の起源のヒントを得るというプロジェクトの紹介です。帰還時にも再投影、そして関連イベントも実施、「はやぶさ2」を応援します。



小惑星にタッチダウンする「はやぶさ2」(イメージ)

©JAXA

科学館はプラネタリウムだけではなくありません。字数が尽いたので紹介できませんが、「科学を楽しむ文化の振興」を目指して今年度もサイエンスで満開です。ピンチをチャンスに、元気に開館します。今年度もどうぞご期待ください!